

第51回 廃炉・汚染水対策現地調整会議

議事概要

1. 開催概要

日時：令和2年2月19日（水）10：45－12：15

場所：いわきワシントンホテル【3階：アゼリアB+C】

2. 出席メンバー

<政府>

松本 洋平	原子力災害現地対策本部長（経済産業副大臣）
由良 英雄	原子力災害現地対策本部 副本部長
師田 晃彦	復興庁 福島復興局 次長
上谷 昌史	国土交通省 水管理・国土保全局河川環境課 河川環境評価分析官
筒井 誠二	環境省 水・大気環境局水環境課 課長
有林 浩二	文部科学省 研究開発局原子力課 放射性廃棄物企画室 室長
高瀬 美和子	水産庁 増殖推進部研究指導課 課長
須藤 治	原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策チーム 事務局長補佐
光成 政和	原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策チーム 事務局長補佐
田中 克直	原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策チーム 企画官
奥田 修司	原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策チーム 廃炉・汚染水対策官
生越 晴茂	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 所長
木野 正登	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 参事官
町屋 政蔵	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 調整官
小野 義世	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 廃炉・汚染水対策官
佐々木 英治	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 廃炉・汚染水対策官
川武當 晴美	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 廃炉・汚染水対策官
狩野 成昭	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 課長補佐
高倉 寧	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 課長補佐
秋元 正人	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 係長
佐藤 義就	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所
野村 幸広	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所
片山 淳	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所

<原子力損害賠償・廃炉等支援機構>

上條 仁志 福島第一原子力発電所現地事務所 所長

<規制当局>

澁谷 朝紀 原子力規制庁 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室 企画調査官
南山 力生 原子力規制庁 地域原子力規制総括調整官

川又 修司 厚生労働省福島労働局 労働基準部長

<東京電力>

小野 明 常務執行役 福島第一廃炉推進カンパニー プレジデント

大倉 誠 常務執行役 福島復興本社代表

梶山 直希 執行役員 福島第一廃炉推進カンパニー バイスプレジデント

清水 研司 福島第一廃炉推進カンパニー 福島第一原子力発電所 ユニット所長

<オブザーバー(福島県)>

菅野 伸志 福島県 危機管理部 政策監

●松本副大臣 冒頭挨拶

本日はお忙しい中、お集まりいただき感謝いたします。

来月で、東日本大震災から丸9年が経過します。この間、福島第一原発の廃炉・汚染水対策は着実に進捗していますが、引き続き緊張感をもって臨むことが重要です。この現地調整会議において、現場の状況や課題を、関係者一同でしっかりと共有・認識し、万全の対策を取っていきたいと思います。

昨年末には、「廃炉・汚染水対策関係閣僚等会議」を開催し、福島第一原発の廃炉に向けた「中長期ロードマップ」を改訂しました。

この3月には、双葉町、大熊町、富岡町で一部区域の避難指示解除を予定しています。このように周辺地域で住民帰還と復興の取組が徐々に進む中、「復興と廃炉の両立」を大原則とし、地域とともに廃炉を進めていくことを、改めて明確にしました。

こうした中、今年は、復興五輪がこの福島にやってきて、世界各地から選手団やメディア観光客など、多くの方々が福島を訪れる大きなチャンスとなります。この機会に、丁寧で正確な情報発信を通じて、安全・着実に廃炉が進捗していることをしっかりと伝え、より一層、福島の復興を前進させるよう、努めていきましょう。

さて、これまで現地調整会議では、台風などに伴う豪雨災害に対する備えについて継続的に検討を行い、その結果を受けて、現場でも様々な対応を行ってきました。

昨年10月には、台風19号が福島県を襲い、福島第一原発にも、数年ぶりの大雨が降りました。本日は、これまで実施してきた対策の効果について報告を受け、しっかりと検証したいと思います。

また、中長期ロードマップに基づき進めている作業の現状も確認するべく、1/2号機排気筒の解体や3号機プール燃料の取り出しなどの進捗状況についても、取り上げます。

本日も忌憚のない活発な御議論をよろしくお願いいたします。

3. 指摘事項

資料 1

- 中長期ロードマップにおける、汚染水発生量を 2020 年内に 150m³/日程度、2025 年内に 100m³/日以下に抑制する目標は、これまでの対策が機能していることが前提。運用開始から年数が経ち、機械的な設備は寿命が来ているものも徐々に出てくると思う。汚染水対策としての機能を維持するために、設備をどう更新していくか、考えてほしい。
- 豪雨対策として、排水路の工事に他に、今年の出水期に何をするのか、台風期に何をするのか、時間軸を入れながら検討してほしい。
←（東京電力）排水路の工事は恒久的な対策。対策が完了するまでの間は、雨水が溜まりやすいエリアへの土嚢設置等、事前準備で対応していきたい。

資料 2, 3

- 1号機使用済燃料プールのゲートカバー設置について、線量が高いウェルプラグに近いが、作業員の被ばく量が増えるのではないか。
←（東京電力）ゲートカバー設置は遠隔操作で行うので、作業員の被ばくはない。
- 1号機原子炉格納容器の内部調査作業と、使用済燃料プールのゲートカバー設置作業は干渉しないのか。上下作業になるのではないか。
←（東京電力）格納容器近傍の作業と、オペレーションフロアでのゲートカバー設置作業は、上下作業とならないよう、作業時間をずらす調整している。
- 3号機使用済燃料の取り出しについて、燃料のハンドル変形が 14 体で確認されたとのことだが、既存の燃料取り出し設備で取り出し可能なのか。
←（東京電力）数体は、吊り治具の改良が必要な変形が確認されている。

●松本副大臣からの指摘事項

- 中長期ロードマップにおける汚染水発生量低減目標の達成には、屋根の補修工事を確実に進めることが重要。工程検討中の1・2号機廃棄物処理建屋についても、速やかに工程を精緻化して取り組み、150m³/日を確実に達成するとともに、その先の2025年100m³/日以下の目標に向けても、計画的に取り組んでいただきたい。
- 豪雨時のシミュレーション結果を踏まえた対応について、排水路の設計等の技術的な検討を早期に終え、排水路の整備等、必要な対策を、できるだけ速やかに進めていただきたい。また、災害時にこそ、周辺の自治体や住民等に対する迅速でわかりやすい情報発信を行っていただきたい。
- 1号機・2号機プールからの使用済燃料取り出しについて、年末の中長期ロードマップ改訂においては、安全対策を拡充するためそれぞれ数年遅らせたが、取り出し時期を遅らせることは、使用済燃料をリスクの高い環境下に長い期間留め置くことでもある。安全・安心を最優先にしながらも、スケジュール感をもって作業にあたっていただきたい。
- 1/2号機排気筒の解体工事について、当初は様々なトラブルに苦しめられたが、年末以降、スムーズに作業が進められている。東京電力として地元企業をしっかりとサポートし、作業のしやすい環境を作ることで成果を上げてきたことを評価したい。引き続き、安全・着実に作業を進めてほしい。
- 人員不足との指摘について、私自身、各市町村長から不安の声をいただくこともある。東電社内で、現場の人員を増やすとの説明があったが、ヒューマンエラーを最小限にするという目的をよく意識し、改善してほしい。
- 各省の意見をしっかりと受け止めてほしい。また、安全管理は重要であり、冒頭に報告のあった作業員の汚染については早急に根本原因を調査してほしい。

4. 次回以降の日程

次回の開催時期については、決定次第事務方より連絡。